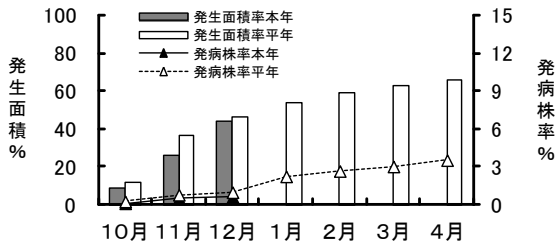


平成25年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

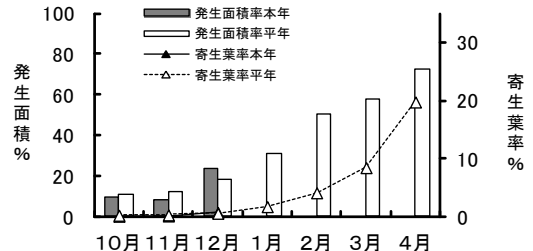
● 抑制・促成キュウリ(中央部・中西部・西部)

黄化えそ病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)における黄化えそ病の発生推移

ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並

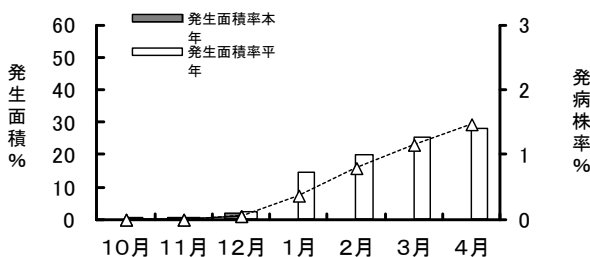


キュウリ(抑制・促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

黄化えそ病は平年並みの発生です。厳寒期に入り、発生は落ち着くと思われませんが、既発ほ場では、発病株は伝染源となることから早期除去に努め、媒介虫のミナミキイロアザミウマの防除に努めてください。

ミナミキイロアザミウマは、県中央部でやや多発生となっています。生長点部にいる場合は見つけにくく、薬剤もかかりにくいことや、密度が高くなると防除が困難になることから、初期防除の徹底及び丁寧な散布を心がけてください。

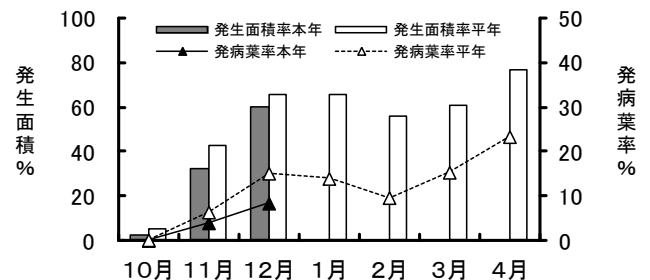
つる枯病 発生量: やや少



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるつる枯病の発生推移

つる枯病は、県中西部で平年並、その他の地域ではやや少～少発生となっています。厳寒期はハウス換気が不十分になりやすく、現在の発生状況からやや多発生で推移すると思われますので、早期発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

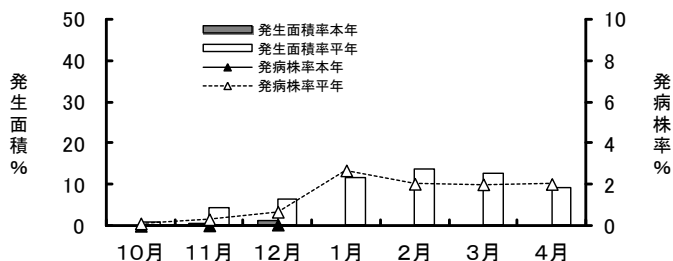
べと病 発生量: 平年並



キュウリ(抑制・促成栽培)におけるべと病の発生推移

べと病は県中央で平年並の発生となっています。今後も、平年を超えるような大きな増加はないと思われますが、蔓延すると、薬剤散布による防除は困難となりますので、早めに発見して防除を行うとともに、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

褐斑病 発生量: 少



キュウリ(抑制・促成栽培)における褐斑病の発生推移

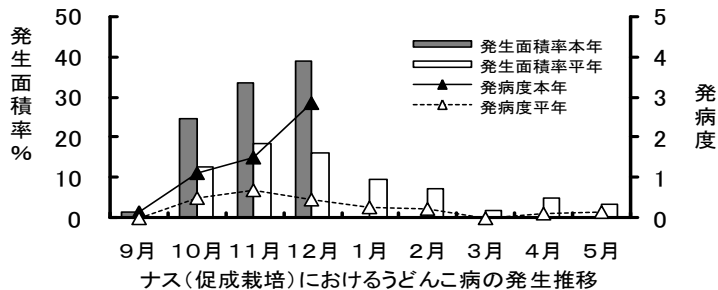
県全域で少発生となっていますが、本病は蔓延後の薬剤散布による防除が困難となりますので、早めに発見し、適正な温湿度及び肥培管理により草勢の維持を図ってください。

平成25年1月7日

高知県病害虫発生予察11月月報及び予報第9号(12月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ナス(東部・中央部・西部)

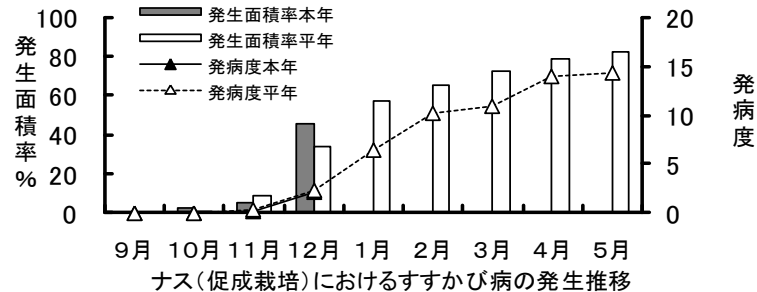
うどんこ病 発生量:多



ナス(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県東部と中央部で発生が多くなっています。今後の気象が低温気味で、晴天が続くと予想されていることから、病勢の進展に注意し、早期に防除を行ってください。

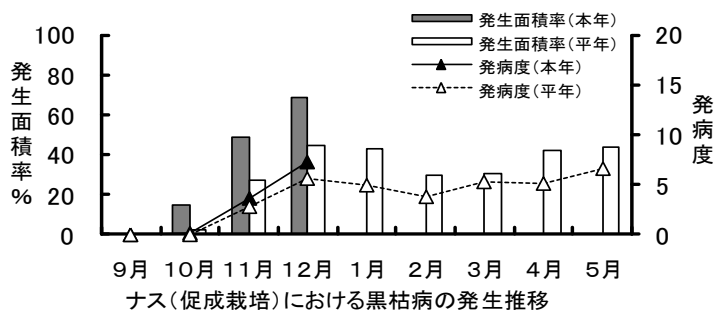
すすかび病 発生量:やや多



ナス(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

県東部～中央部で多めの発生で、中央部では発病度も高いです。今後の気象予想から発病を助長する要因は少ないですが、無加温栽培などでは蒸し込みによる換気不足も懸念されますので、病勢の進展には十分ご注意ください。

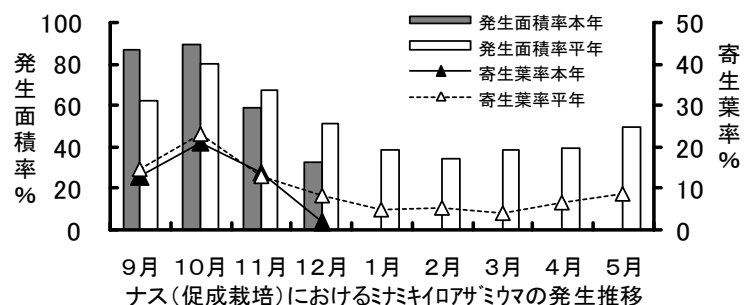
黒枯病 発生量:やや多



ナス(促成栽培)における黒枯病の発生推移

県全域で、発生面積が多く、発病程度も高くなっています。今後の気象予報では、気温が低い状態が続く、晴天日が多くなるとの予想です。発生を助長する気象条件ではないと思いますが、すすかび病同様に、今後の病勢の進展に注意してください。

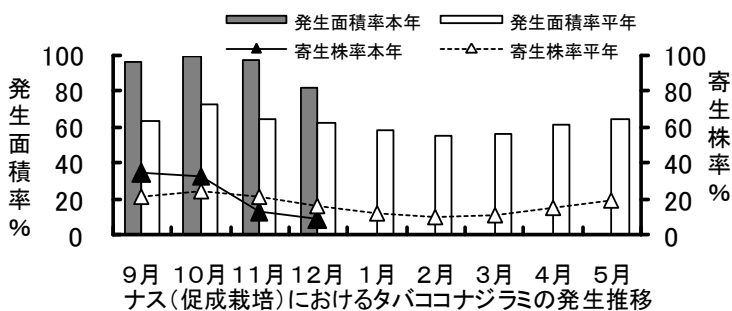
ミナミキイロアザミウマ 発生量:やや少



ナス(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

県全域で発生は、やや少発生～少発生です。今後は低温傾向が続くことが予想され、急激な密度の増加はないと予想されます。天敵を放飼しているほ場で、本虫の密度が高いほ場では、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除が必要になります。

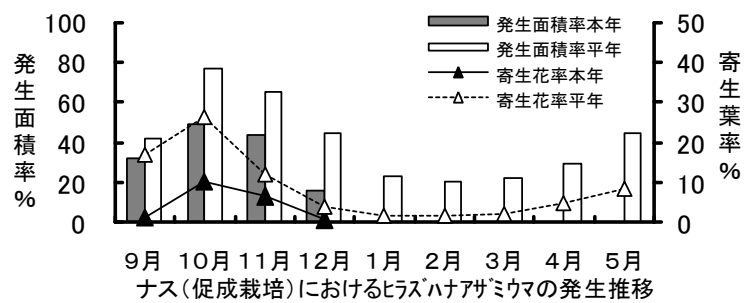
タバコナジラミ 発生量:平年並



ナス(促成栽培)におけるタバコナジラミの発生推移

現在、県東部～中央部で発生面積がやや多く、寄生株率も高くなっています。しかし、天敵導入ほ場では成虫がわずかに見える程度の発生です。増加が早いので、微生物製剤や選択性殺虫剤等での防除により高密度にならない様に気をつけてください。

ヒラズハナアザミウマ 発生量:少



ナス(促成栽培)におけるヒラズハナアザミウマの発生推移

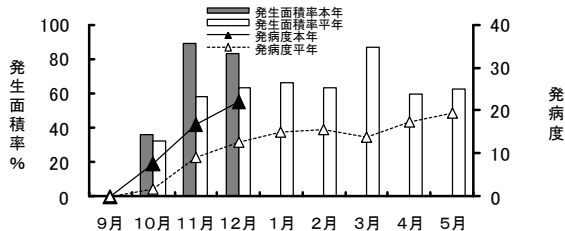
県全域で発生が少ない状態です。今後も、急激な密度の増加はないと思いますが、発生をよく観察し初期防除に努めてください。天敵導入ハウスでは薬剤の選定に留意してください。

平成25年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

● 促成ピーマン(東部・中央部・中西部)

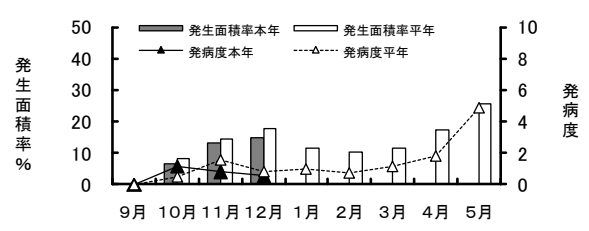
うどんこ病 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるうどんこ病の発生推移

県下各地とも平年並からやや多発生となっています。向こう1ヶ月予報では気温は平年並からやや低く、日照量はやや多いと予想されています。今後も現在の発生状況が続くと予想され、蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。

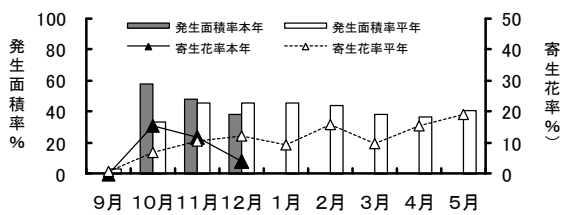
黒枯病 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)における黒枯病の発生推移

東部では多発傾向ですが、全体的には平年並の発生となっています。蔓延すると防除が困難になるので、予防散布及び初期防除に努めてください。散布の際は下葉や葉裏へのかけ残しのないように丁寧に散布してください。

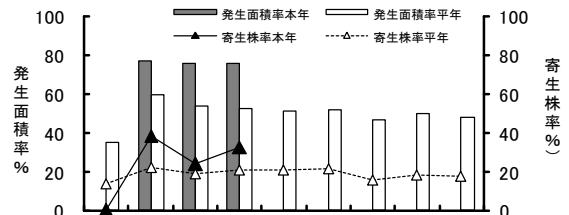
ミナミキイロアザミウマ 発生量: 平年並



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるミナミキイロアザミウマの発生推移

東部ではやや多発生となっていますが、全体的に平年並の発生で推移しています。今後も現在の状況で推移すると思います。初期防除を徹底するとともに、薬剤のローテーションを行い抵抗性の発達を回避してください。なお、天敵導入の場合は天敵への影響を十分考慮して使用薬剤を選定してください。

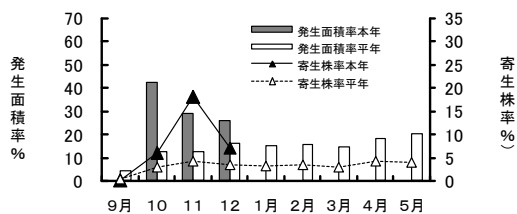
タバココナジラミ 発生量: 平年並み



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

全体的にやや多発生の傾向ですが、ほとんどが成虫の発生が見られる程度です。スワルスキーカブリダニがほとんどのほ場で導入され、定着が進んでいます。スワルスキーの定着の悪い場合には、初期防除に努めてください。防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

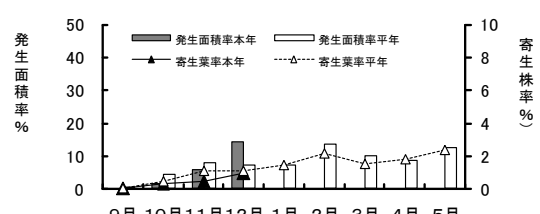
アブラムシ類 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるアブラムシ類の発生推移

県中央部で多く、全体的にもやや多発傾向にあります。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。天敵導入ハウスでは、ヒゲナガアブラムシ類の発生に注意しましょう。薬剤散布の場合は天敵に影響の少ない農薬を選定しましょう。

ハダニ類 発生量: やや多



ピーマン・シトウ(促成栽培)におけるハダニ類の発生推移

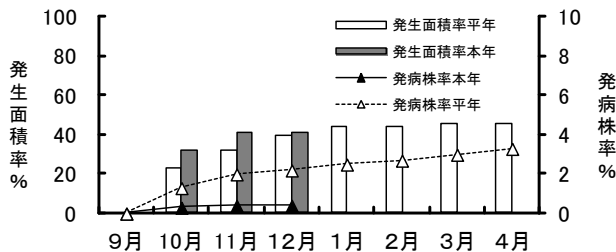
県東部から中央部で発生が多くなっています。密度が高くなると防除が困難となりますので、低密度時からの防除に心がけてください。また、防除に際しては天敵への影響を十分考慮して薬剤を選定してください。

平成25年1月7日

高知県病害虫発生予察12月月報及び予報第10号(1月) 野菜類ダイジェスト版

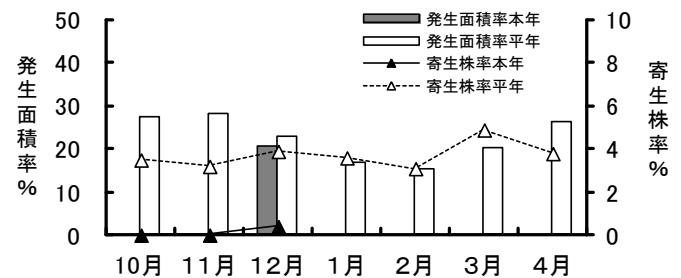
● 促成トマト(中央部)

トマト黄化葉巻病(TYLCV) 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)における黄化葉巻病の発生推移

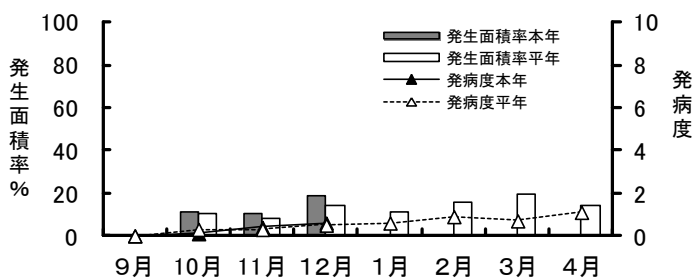
タバココナジラミ 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるタバココナジラミの発生推移

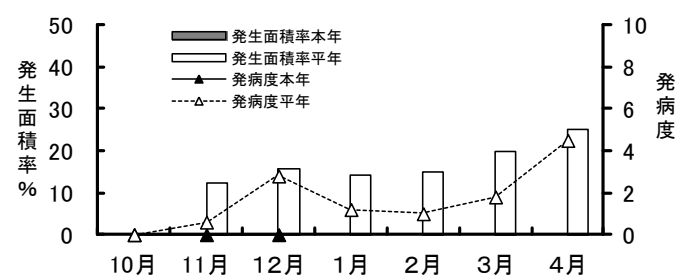
黄化葉巻病の発生面積は平年並み、発病株率は低く推移しており、媒介虫であるタバココナジラミも平年並みに推移しています。今後も厳寒期にあたり、媒介虫の飛び込みや施設内での増殖も抑えられるものと思われます。既発ほ場では新たな発病株の早期除去に努め、媒介虫の発生に注意しましょう。

すすかび病 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるすすかび病の発生推移

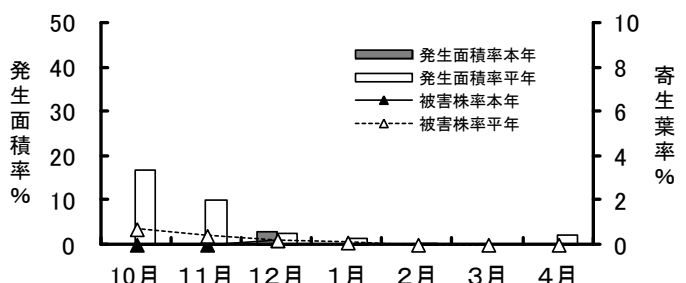
葉かび病 発生量: 少



トマト(促成栽培)における葉かび病の発生推移

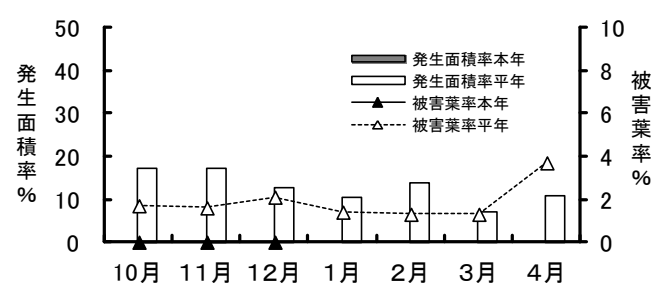
すすかび病は平年並、灰色かび病および葉かび病は平年より少発生となっています。向こう1ヶ月予報では、気温は平年並みか低く、降水量は平年並み、日照時間は少ないと見込まれ、上記のような病害が急激に伸展することはないと思われますが、多湿条件が多発の要因となることから、換気を十分に行之、適正な温湿度管理に留意してください。

ハスモンヨトウ 発生量: 平年並



トマト(促成栽培)におけるハスモンヨトウの発生推移

ハモグリバエ類 発生量: 少



トマト(促成栽培)におけるハモグリバエ類の発生推移

ハスモンヨトウ・ハモグリバエ類は防虫ネットの普及により施設内への飛び込みが少なくなっています。しかし、12月の巡回調査では、いくつかのほ場で発生がみられましたので、今後の発生に注意して下さい。